

かながわこども医療ネット  
神奈川県立こども医療センター 地域医療連携ネットワーク

神奈川県立こども医療センターでは、小児医療の発展、患者さんの療養環境の向上を目指し、地域医療連携の推進に力を入れています。

「かながわこども医療ネット」は連携先の医療機関に、こども医療センターの電子カルテ情報(処方歴、注射歴、検査結果、画像)をインターネット経由で公開するシステムです。

また、連携先の医療機関とこども医療センター間で地域医療連携パスや治療に関わる情報をネットワーク上でリアルタイムに共有するなど、効率的かつ緊密な小児医療提供体制の実現を目指しています。

- 連携先医療機関を随時受け付けています。申込みは地域医療連携室までご連絡下さい。
- 閲覧にはネットワークの連携、患者さんの同意が必要になります。

◆神奈川県立こども医療センター・研修のご案内◆

第16回 小児重症例検討会

- ☆ 日時:平成30年11月2日(金)19:00~21:00
- ☆ 場所:当センター本館2階 講堂
- ☆ お問合せ:地域医療連携室
- ※詳細はホームページに掲載予定

第2回 地域医療支援事業研修会

- テーマ「小児アレルギー疾患 診療のポイント」
- ☆ 日時:平成30年11月8日(木)19:00~20:30
- ☆ 場所:当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ:地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さん原則 15才以下(中学生まで)が、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※ 紹介状の添付資料(紹介状の添付資料(画像CDやフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。  
※ 紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

【編集・発行】 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室  
〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL:045-711-2351(代) FAX:045-710-1933  
Home Page: <http://kcmc.kanagawa-pho.jp>



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
神奈川県立こども医療センター

# 地域医療連携室だより

## 子ども達の未来を支える社会をめざして



左:森内副院長 右:渡部地域医療連携室長

副院長 森内 みね子

4月から副院長として着任致しました。資格は看護師です。どうぞよろしくお願ひします。チーム医療の推進を根幹にセンター運営をされているチーム山下(総長)のメンバーのひとりとして、新たな職に挑んでいるところです。さて、保健・医療・福祉の分野は、2025年にむけて「医療提供体制の再構築」と「地域包括ケアシステム」の実現にまっしぐらです。良い医療を行うために自らが経営力を持ち、病院

運営をしなければならぬ時代であることは言うまでもありません。これらの動きは小児医療においても同様です。今、地域医療連携室とは、病床運営に関すること、退院が困難な子ども達の入退院支援の体制づくり、成人移行期医療支援の具現化などについて、お互いに知恵を出し合い、様々な提案・改革の原動力になれるよう取り組んでいるところです。中でも成人移行期医療支援は、小児医療の進展により多くの子ども達の命が救われるようになった一方で、その子ども達が思春期、成人期を迎えており、医療体制と患者自律(自立)支援の2つの側面から、解決しなければならぬ小児病院の大きな課題



病院管理者 「チーム山下」

となつています。当センターにおいても、成人移行期医療支援のあり方について、院内調査や学習会を始めたところです。是非、今年度中に取り組みを報告させていただき、当センターと他施設との連携・移行の第一歩になればと考えておりますので、関心を寄せていただけたら幸いです。

また、このような視点で捉えると、地域医療連携室は外来と共に、これからさらに移行期医療・他職種連携等の中核ともいえる部門として進化することが求められていると考えています。当センターにおいても、時代のニーズに対応した子ども達の未来を支える新たな地域医療連携室を構築する時期を迎えています。その時には、組織を超えた地域の皆様から、当センターへの期待などの新鮮な声を聴かせていただき、実現できることを願っています。

子ども達の笑顔や未来を支えることは、豊かな社会創りにも繋がると実感する日々です。社会の中で子ども達の未来を支えていくことができるように、これからの地域の皆様と共に歩む関係を大切にさせていただきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

平成30年10月

VOL.37

登録医療機関数

742件

<H30.10現在>



神奈川県立こども医療センター 整形外科  
(全てのこども達に等しい治療機会を)

整形外科 部長  
中村 直行



脊柱側弯症、股関節脱臼、内反足など、一般病院では対応が難しい小児整形外科疾患に対し、他科と連携しながら診断と治療を行っています。

また、当センターは肢体不自由児施設を有しており、バリアフリーの環境の中で併設された学校に通うことが可能です。長期療養を必要とする患児は、手術からその後のリハビリテーションを含め、安全、着実に治療を行うことができます。

脊柱変形は、環軸椎不安定症(図1)や思春期の側弯症、脳性麻痺や筋疾患に伴う側弯症(図

2,3)などに高い診療実績があります。

ペルテス病は肢体不自由児施設を利用した完全免荷治療と大腿骨内反回転骨切手術を症例に合わせて組み込むことで、国内でもトップクラスの治療成績を公表しています。



図1. Down症環軸椎不安定症術後ハロベスト固定



図5. 先天性股関節脱臼のオーバーヘッドトラクションによる整復



図6. 股関節脱臼ギプス巻き

大腿骨頭すべり症は手術と術後の免荷治療を適切に行うことで股関節変形を防止しています。

先天性内反足に対しては、早期のギプス矯正(図4)と手術の併用によって、また二分脊椎な



図4. 内反足ギプス巻き

ど麻痺性疾患の足部変形は装具療法や手術によって機能的な足を再建、維持しています。

先天性股関節脱臼の装具治療が無効なものには、オーバーヘッド牽引の利用や手術で対応しています。(図5,6)

四肢の脚長差・変形はイリザロフ創外固定や8プレートにより治療しています。

脳性麻痺や多発性関節拘縮症はリハビリをおこないながら必要に応じて軟部組織離断手術を行っています。

骨肉腫などの悪性骨軟部腫瘍は血液腫瘍科、神奈川県立がんセンター骨軟部腫瘍科と連携し可能な限り患肢温存療法を行っています。

中でも当科が特に注力している障がい児の側弯症手術についてご紹介します。



図2. 側弯症手術

脳性麻痺、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、などに代表される神経筋性疾患は高頻度に脊柱変形を合併し、且つ、高度に進行することによく知られています。脊柱側弯の進行とともに坐位バランスが崩れ、日常生活に支障が生じます。放置して高度変形になった場合、重篤な呼吸障害が生じます。他、誤嚥、食道逆流、便秘、腸閉塞などの症状が生じることもあります。欧米ではその手術によって得られる患者利益から、障がい児側弯は積極的な手術対象となっていますが、国内ではまだまだ認知が遅れていると感じます。特に、このような障害を持ったお子様達の最も近くにいる理学療法士の方々に、未だに手術適応に関して懐疑的でいらっしゃる方が少なくなく、御家族が手術考慮される時に、大きな障



図3. 神経筋性側弯症術後の患者様と。(掲載に関して患者様及び御家族の同意を得ています。)

壁となる事もまだまだよくあります。整容的要素の大きい思春期特発性側弯症と異なり、神経筋性側弯症に対する手術治療は、座位姿勢の安定、栄養状態の改善、肋骨と骨盤の接触による褥瘡の改善、呼吸状態の改善、など目に見える効果があり、まさに、生活や生命に対する改善を目指す手術だと言っても過言ではありません。当科で手術を受けられた患者様の御家族アンケート調査では、同じ病気のお子さんがいいたらこの手術を進める、とした介護者は実に8割に及びました。このような高い満足度が得られることは驚きの新事実などではなく、海外ではずいぶん以前より知られていることで多くの論文で報告されています。日本が遅れているというのが真実の姿なのです。そして、本手術は、手術自体も大変なのですが、術後の全身管理が同じくらい大切です。その為、小児疾患の治療に長けたスタッフが協力体制で対応する当院のような小児専門施設で行われることをお勧めします。



神奈川県立こども医療センター  
整形外科のホームページのアドレス  
<http://kcmc.jp/SeikeiHP/index.html>